

一人娘を難病でなくした愛知県一宮市松降通八の杉本正照さん(四三)が、看病の経験を生かし、今年七月から県内を中心とした福祉タクシの運行を始めた。妻・陽子さん(三三)との協

福祉タクシGO

力を得て、トラック運転手からの転身。「娘が導いてくれた道だと思って頑張ります」と話す杉本さん夫妻を、タクシにデザインされた一人娘の笑顔のロゴが見守っている。

得意だった太陽の絵に娘タクシに描いた。笑顔をだぶらせた、正照さんデザインのロゴも愛知県内の福祉タクシ

新たな出発を誓う杉本正照さんと陽子さん＝愛知県一宮市で

業者は現在約七十あるが、介護保険が適用でき利用者負担の少ない介護保険事業者車両に客が流れがちだという。開業して約二カ月。福祉タクシ専門業者のハンディもあり、利用客が伸びていないのが目下の課題だ。杉本さん夫妻は「有優が後押ししてくれた仕事。あきらめず、なんとか軌道に乗せていきたい」と、有優ちゃんのロゴに笑顔で誓った。



杉本さん夫妻は五年前に結婚し、翌年に長女有優(ゆづゆ)ちゃん＝写真＝が誕生した。しかし、その半年後に医師から、全身の筋肉が委縮する難病「ウェルドニッヒホフマン病」との診断を受け、人工呼吸器付きの入院生活が始まった。

余命二年とも宣告され、夫妻は病院近くのマンションに引っ越して看病に打ち込んだ。有優ちゃんは、一時は外出も可能なほど元気を取り戻したが、昨夏、体調を崩し、三歳十カ月の命を閉じた。

正照さんは、有優ちゃんの看病を通じて福祉に関心を抱き、ホームヘルパーや障害者スポーツ指導員の資格を取得した。娘の死が、福祉への道を

病死の娘に導かれ

後押しした。「福祉タクシの」資料を読みながら「これにしよう」と。有優が背中を押してくれる気がして…

二種免許を取り、借金をして車いす用リフトの付いたワンボックスカーを購入。トラック運転手を辞めた正照さんが運転手、専業主婦だった陽子さんは利用者からの電話受け付けや、外部への営業活動と役割分担し、約半年間の準備期間を経て開業にこぎ着けた。その名も「ケアタクシ優」。優の文字に思いを寄せ、有優ちゃんが

一宮の夫妻 看病経験生かす



業者は現在約七十あるが、介護保険が適用でき利用者負担の少ない介護保険事業者車両に客が流れがちだという。開業して約二カ月。福祉タクシ専門業者のハンディもあり、利用客が伸びていないのが目下の課題だ。杉本さん夫妻は「有優が後押ししてくれた仕事。あきらめず、なんとか軌道に乗せていきたい」と、有優ちゃんのロゴに笑顔で誓った。